

本症例での問題点

1. ガイディングカテーテルの選択

はやめによりフィットするカテに変更すべきであった

チップの透視マーカが、先端から少し離れているカテは選択すべきでなかった

2. 造影剤注入に際して

先端圧がダンピングしていないことを十分確認すべきであった

3. カテーテル挿入部に関して

TRI から TFI に変更することも考慮されるべきであった

Tips

1. 偽腔の tear に IVUS カテーテルを挿入してしまうことで、それ以上の解離の進行を食い止めることができた

2. その IVUS ガイド下に真腔にガイドワイヤをクロスすることができた

3. 冠動脈遠位側から多数個のステント留置で解離腔を圧排・閉鎖し bail out に成功した